

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和7年度病害虫防除情報第4号

トマトキバガの発生状況と防除対策について、下記のとおりまとめましたので、業務の参考にご活用ください。

トマトキバガの発生が増加しています。 今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょう。

1 作物名 トマト、ミニトマト

2 病害虫名 トマトキバガ

3 発生状況（経過）

(1) 6月上旬以降、県内19地点に設置しているフェロモントラップにおいて、本虫の誘殺が増加している。過去2か年の同時期と比較して、トラップ1地点当たりの誘殺数が多い状況が継続している（図1）。

(2) 当センター過去2か年の調査結果では、9月下旬以降に誘殺数が増加する傾向がみられ、今年度はさらに多く発生することが予想される（図1）。

(3) 令和7年8月現在、県内の複数ほ場で発生が確認されている。

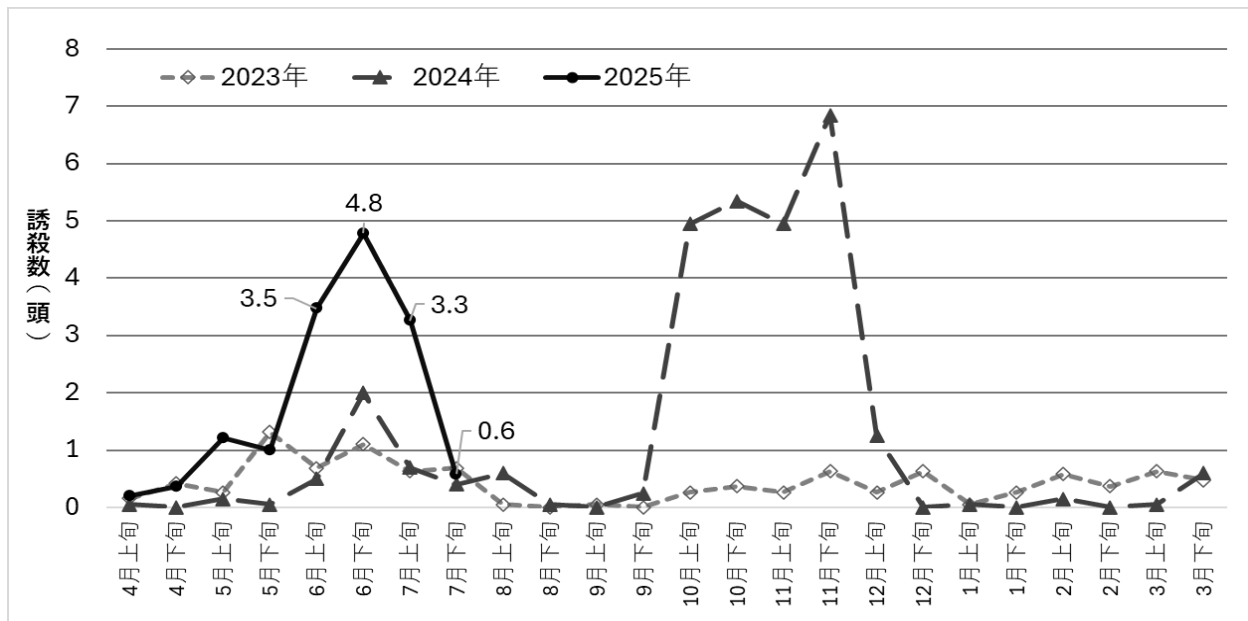


図1 県内のトマトキバガフェロモントラップによる1地点当たりの誘殺数

4 本虫の特徴

(1) 成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm程度である(写真1)。

幼虫は終齢で約8mm程度で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する(写真2)。

(2) トマトにおいて、葉では、内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成され、食害部分は表面だけが残って薄皮状の白～褐変した外観となる(写真3)。ハモグリバエ幼虫による被害葉に似ているが、ハモグリバエの食害痕は細長く、糞が線状になるのに対して、トマトキバガの食害痕は面的であり、一定の場所に戻って糞をするため、一部分が黒く見える(写真4)。

- (3) 果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じ、食害部分が腐敗し、果実品質が著しく低下する(写真5)。
- (4) 国内で発生が確認された農作物はトマト及びミニトマトのみである。海外では、ナス、タバコ、パレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。



写真1 成虫



写真2 幼虫

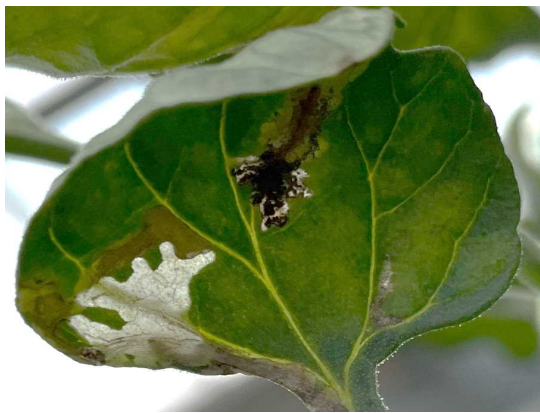


写真3 葉の被害



写真4 ハモグリバエ被害との比較



写真5 果実の被害



写真6 防虫ネットの隙間

5 防除上の注意

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。併せて、別表1を参考にトマトキバガに登録のある薬剤の散布を行う。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが異なる薬剤でローテーション散布を行う。また、総使用回数やミツバチへの影響を考慮して薬剤を選定する。
- (2) 除去した被害葉や被害果を野外に放置すると、それが発生源となり、周囲に拡散する恐れがあるため、薬剤散布後に、ビニール袋などに入れて、一定期間密閉し、寄生した成幼虫が死滅したことを確認したのちに適切に処分する。
- (3) 防虫ネットを設置している場合は、隙間や破れがないか再度確認する(写真6)。
- (4) 発生が疑われる場合、管轄の農業改良普及センターやJ A、病害虫防除・肥料検査センターに速やかに連絡する。

別表1 トマト、ミニトマトでトマトキバガに登録のある農薬（令和7年8月1日時点）

IRAC コード	農薬名 (商品名)	登録の有無		農薬の種類	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	使用回数
		トマト	ミニトマト					
5	ダブルシューターSE	○	○	脂肪酸グリセリド・ スピノサド水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内
	ディアナSC	○	○	スピネトラム 水和剤	収穫前日まで	2500～ 5000倍	散布	合計2回以内
	ラディアントSC	○	○		収穫前日まで	2500～ 5000倍	散布	
6	アフファーム乳剤	○	○	エマメクチン安息 香酸塩乳剤	収穫前日まで	2000倍	散布	5回以内
	アグリメック	○	×	アバメクチン 乳剤	収穫前日まで	500～ 1000倍	散布	3回以内
	アニキ乳剤	○	○	レビメクチン 乳剤	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内
11A	エスマルクDF	○	○	B T 水和剤	発生初期 但し、 収穫前日まで	1000倍	散布	—
	サブリナフロアブル	○	○			1000倍	散布	—
	ゼンターリ顆粒水和剤	○	○			1000倍	散布	—
	チューンアップ顆粒水和剤	○	○			2000倍	散布	—
13	コテツフロアブル	○	○	クロルフェナビル 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
22A	トルネードエースDF	○	×	インドキサカルブ 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	合計2回以内
	ファイントリムDF	○	×		収穫前日まで	2000倍	散布	
22B	アクセルフロアブル	○	○	メタフルミゾン 水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内
28	プレバソンフロアブル5	○	○	クロラントラニプロール 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
					育苗期後半～ 定植当日	100倍	灌注	1回
	ベネビアOD	○	○	シアントラニプロール 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	合計5回以内 (但し、定植時までの処理 及び定植直後の株元灌注は 合計1回以内、定植後の株 元灌注は1回以内、定植後 の散布は3回以内)
	ベリマークSC	○	○		育苗期後半～ 定植当日	400株当 り25ml	灌注	
	ブリロッソ粒剤オメガ	○	○	シアントラニプロール 粒剤	育苗期後半～ 定植時	2g/株	株元散布	
	フェニックス顆粒水和剤	○	○	フルベンジアミド 水和剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
30	ヨーバルフロアブル	○	○	テトラニプロール 水和剤	収穫前日まで	2500倍	散布	3回以内
				フルキサメタミド 乳剤	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
UN	プレオフロアブル	○	○	ピリダリル 水和剤	収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内

6 その他

6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 田爪、後藤

TEL: 0985-73-6670 FAX: 0985-73-2127

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

HP: https://hinatamafin.pref.miyazaki.lg.jp/soshiki/noshi_byogai/index.html

